

デザイン史

必修

開講年次：1年次前期

科目区分：講義

単位：2単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：(1)デザインを学んだことの証明は、その分野がどのような過程を経て現在に至るかを、一般常識として学習していることに他ならない。この講義では、社会の一員として、デザインの教養を常識的に携える知識を獲得することを目的とする。

(2)人間は有史以来、住居や都市、道具や情報といった自分たちの生存環境のデザインを試みてきた。本講義では、このような広義の「デザイン」をデザイン前史（20世紀以前）からの一貫性の中で通史的に学ぶ。なお、本科目は建築士受験資格の取得に必要なとされる指定科目（その他）である。

■**到達目標**：デザイン史に関わるトピックスを、住環境である建築や都市の変遷を礎としながら、以下の観点から理解すると共に、著名な作家や作品、デザイン運動等の知識を素養として獲得する。

- ①技術の発展とデザインとの関係について理解する
- ②文化とデザインの関係について歴史的な変遷を理解する
- ③社会・経済がデザインに及ぼした影響を理解する

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎吉田 和夫・齋藤 利明・細谷 多間・金子 晋也

■**授業計画・内容**：

第1回 インTRODクション「なぜデザイン史を学ぶのか」 <デザイン前史>	<1970～80年代（ポストモダン）>
第2回 建築・都市	第10回 建築都市
第3回 人工物・情報	第11回 人工物（1）
<1920～40年代（大戦前・モダンデザイン期）>	第12回 情報（1）
第4回 建築都市	第13回 人工物（2）
第5回 人工物	第14回 情報（2）
第6回 情報	第15回 デザイン史リフレクション
<1950～60年代（戦後・日本のデザイン）>	
第7回 建築都市	
第8回 人工物	
第9回 情報	

■**教科書**：適宜資料を配布する。

■**参考文献**：定期試験やレポート等（70%）、授業態度や参加の状況（30%）

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	到達目標			評価割合(%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③	
定期試験	◎	◎		60
小テスト・ 授業内レポート				
授業態度	◎	◎	◎	10
発表				
作品				
出席	○	○	○	30
その他				

◎：より重視する。 ○：重視する。 空欄：評価に加えない。

■**関連科目**：近現代建築史ほか

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：デザインの専門家になろうとしている皆さんは、デザインという分野の「今」を適確に読み解く能力が必要です。こうした能力は、「今」を観察しているだけでは、なかなか身につけません。デザインの過去に、どのような経緯があったのかを知ることで、「今」おこっている様々な出来事が見えてきます。この授業を大学における皆さんの学びに役立ててください。